

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600337		
法人名	社会福祉法人 栄幸会		
事業所名	きたうえファミリー		
所在地	静岡県三島市徳倉1148-2		
自己評価作成日	平成27年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&Ji_gyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田3丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成27年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かで小鳥たちのさえずりが年間を通し聞こえている環境にあります。平屋建ての明るいフロアは、吹き抜けで60畳あり日が燦々とさしてなかな、ご利用者様達の笑い声がいつも堪えません。
ご利用者様お一人おひとりの人格を尊重した介護をモットーにその方が出来る事をしていただき「今日も楽しかった」という言葉を言っていただけよう全スタッフで日々支援させていただいています。隣接するグループホーム「アネックス」や特養・デイサービスと合同での大きなイベントも多くあり地域の人やご家族とのふれ合いの場になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は三島市北部の県道三島裾野線、徳倉地区高台の閑静な住宅地の奥地に所在する特養「北上の郷」を運営する社会福祉法人栄幸会の福祉施設エリア内に有ります。「お一人おひとりの人格を尊重した介護」を理念として職員が共有し、理念にもとづく行動指針を定めご利用者への介護・支援に努めています。管理者の貴重な経験から得た高齢のご利用者に接する考え方や介護の指導で、職員全員もレベルアップされているようで、その成果を感じられることが今回のご利用者からのアンケートからも知る事が出来ました。事業所内でのご利用者の明るい笑顔が絶えない事、居室内をも含めて整頓された清潔感ある内部が証です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、全スタッフで取り組み実践している。毎年1年間の目標を立て年度末には、全職員で目標達成計画ができていくか見直しをしている。	「お一人おひとりの人格を尊重した介護」を事業所の理念として掲げていますが、実践に当たっては事業所職員共通の年間行動指針を定め、職員が個々に行動・目標計画を立て、期末には自己評価や全員での評価を実施し、互いに質の向上を目指しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の方・地域の方の継続したボランティアの支えや協力を得ている(料理・レクリエーション・傾聴ボラ・外出付き添い)。近隣の方の納涼祭・北上祭りへの参加、保育園の敬老会参加による交流の場がある。	古くからの法人敷地内に創設された施設である関係で地域の方々との交流も活発です。昼食時の料理を作って下さるボランティアの皆さんは毎週1回必ず来訪されるし、法人が運営する保育園児との交流をはじめ、各種イベントが実施されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市役所内での活動の様子展示・福祉まつり・認知症フェスタに参加し多くの方々に認知症の理解を知っていただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月第一水曜日と決めて開催している。議題は入居者様の現況報告や問題点等を率直に取り上げ、委員の意見を活かして運営している。また、スタッフにも伝達している。	運営推進会議は隔月に定期的に開催され、法人が敷地内近隣に併設した別のグループホーム「アネックス」との共催です。職員・入居者の現況から活動の細部にいたるまで丁寧に報告され審議されています。地域の方は民生委員、行政側は地域包括、介護相談員の出席です。	住民の高齢化と認知症問題を最も理解して頂きたいのは地域であり自治会です。地域に密着した施設としての運営にも、一緒に討議に参加していただき地域住民の橋渡しになっていただく為、自治会長か役員代表の出席を期待いたします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	三島市内グループホーム連絡協議会を3ヶ月に1回開催。市職員・他事業所とともに話し合い情報交換・連絡・指導を仰ぐ場になっている。また、毎月のおたよりを提出して様子を伝えている。	通常の市側担当窓口との業務は円滑に推移しています。三島市にはグループホーム連絡協議会があり、3カ月に1回は行政と事業者との諸連絡、事業者間を含めた情報交換等の場としても機能しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に勉強会や話し合いをして職員間で共有。立ち上がりのある入居者様には、すぐに止めるのではなく見守り・付き添い・話しを聞くようにしている。	身体拘束をしないケアの実践についての基本的な事柄については法人主催や事業所内の研修で全員が共有しています。現段階では、日常、一人ひとりのご利用者に寄り添った支援する中で、ご利用者の予期せぬ細かな動きの対応にまで、職員各自が気遣っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症の理解を深める事が虐待防止に繋がる事から勉強会を開催し学んでいる。管理者は入居者様とスタッフの精神面・身体状態にも配慮して虐待に繋がるような事が無いように注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修・勉強会等で職員は周知している。以前、成年後見制度を利用入居者様もいました。ご家族様からの相談があれば可能な限り支援していきたいとおもう。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時、入居が決まった時に重要事項説明書や契約書に沿い誠意を持って説明させて頂いています。また、個室にて十分時間を取り質問が出来るように環境にも配慮しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は常に入居者様・ご家族の意見・要望をケアや運営に反映させる意識を持っている。特に面会・ケアプラン作成・運営推進会議・年2回の家族会の場を重要と考えている。	年2回の法人傘下事業所共催の大家族会は多数のご家族が参加なさるので職員一同も家族会での貴重な要望やその他の発言を重視しています。また運営推進会議での地域の事業者関係外委員からの意見や要望も重要と考え意見の吸収に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議が意見交換や提案の場になっている。また、管理者との面接の場の設定・自己評価表提出によりスタッフの意見や提案を把握・理解して運営している。	ご利用者の日常生活やケアに関する事や事業所の行事計画及び実施などは、それぞれの担当者が情報収集から実践までを行い、ボトムアップ形式で会議で話し合いや評価を行っているので組織全体で意思の疎通が良く、職員から意見や提案も反映され易くなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃のスタッフとの会話や面接等で不安の解消・体調の把握に努め、スタッフが安心して働ける環境を心がけている。また、スタッフの得意分野を活かして運営できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修および法人内の研修委員会を中心に内部研修に力をいれている。また、自己研修・ファミリーでの勉強会に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三島市グループホーム連絡協議会を3ヶ月に1回実施し、交流・意見交換・相談・合同でイベント等行い、相互のサービスや質の向上に努めている。また、県のグループホーム協会に加盟し研修参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は入居者様との関わりを多く持ち・担当職員を配置して不安の少なくなるような支援を心がけている。また、生活歴や入居前の状態を把握してケアする事で混乱が少なく安心して生活して頂けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居直後はご家族との連絡を密に取り情報・意見交換を行い、安心していただけるように努めている。生活の様子を写真やブログで見て安心していただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様・ご家族の希望・要望など情報を把握して管理者(計画作成者)と担当スタッフ中心にカンファレンスを実施しケアプラン作成に活かしている。特に役割・居場所・仲間作りに配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と良い関係を築いていくために、教えていただくという気持ちを持って支援させていただいている。また、出来る役割を見極めスタッフは「ありがとう」を伝える場面を沢山つくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様とご家族の絆を一番と考え、管理者・担当スタッフを中心に密に連絡をとり支援方法を確認している。また、行事・外出にご家族の参加を呼びかけ入居者様と楽しく過ごしていただける場を多くもっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様のご家族・友人・親戚・地域の方々との面会は自由に受付けている。個人外出では担当スタッフは入居者様の願いが聞きとり叶えられるよう計画している。(お墓参り等の思い出の場所・好きなお店や美容室等)	面会の方も多くご利用者の半数以上の方へ、毎週、どなたかが見えられます。衛生管理上、止む負えない時を除き自由に訪問していただいています。日常の思いを実現するために個々の外食・外出支援も随時実施し、法人内の別の事業所が管理する車両で、大勢で外出する事も有ります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室内やフロアで一人にならないようスタッフは配慮して入居者様との時間を作っている。入居者様同士での会話や共同作業がスムーズに出来るように相性や能力を配慮して席を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所者様へは、継続して面会を続けたりご家族様への連絡やお手紙など施設との関係を継続、相談や支援に努めている。退所されたご家族の訪問もある。お墓詣り等もさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で入居者様の希望や意向・想いを全スタッフが共有し家族と相談しながら意向に沿えるように努めている。	職員はご利用者一人ひとりに寄り添い、日常の暮らしの小さな言葉をも大切に、思いや意向の把握に努めています。また食の嗜好が著しく強いご利用者に関してはご家族とも良く話し合い、ケアプランにまで反映するよう努めるなど、ご利用者全員が快適に過ごして戴けるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族・ケアマネからの聞き取りや情報を得て状況を把握して支援に繋げている。また、センター方式の書類を一部活用して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ケース記録・排泄や食事量チェック表・申し送り等により報告・連絡・相談して入居者様の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント・カンファレンス・モニタリングを定期的に実施、入居者様・ご家族の意見や看護師・介護スタッフの他職種から意見を出し合い計画作成している。	介護計画の見直しは半期ごとを基本としています。が通常のモニタリングやカンファレンスの記録を更に3カ月毎に纏め計画作成、変更の資料としています。また、看護師による日常の諸記録も整っていますので計画作成には強い味方です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践・結果・気付いたことを個別記録に記入・スタッフ間で共有。グループホーム会議やカンファレンスで意見交換してケアの見直しやケアプランの変更に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況・状態に合わせて支援内容や重視する視点を変更して支援している。自立支援・リハビリ・看取りまで幅広く対応できるように体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お一人おひとりが暮らしてきた環境・状況を把握しその方の残存機能を出来る限り生かしつつ安全に楽しく、無理のないよう継続できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力内科嘱託医に多くの方が診療を受けている。入居前からの地域の主治医が継続的に往診している入居者様や入居後に認知症専門医を希望して主治医を変更した入居者様もいる。	日頃からご利用者の状況を把握されている内科嘱託医と、協力機関としての医院と双方の関係を密にされています。 多くのご利用者が嘱託医をかかりつけ医とされていますが、他の専門医に受診される場合も往診や受診の際の支援をされています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特養の看護師が定期的に状態を把握する為にくる。また、状態変化や緊急時にはその都度見に来て連携・指示を受けている。医療連携加算の算定中。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と相談のもと、入院先的主治医・ソーシャルワーカーと密に連絡を取り合い早期退院に向けはなしあう。スタッフも時間の許す範囲で面会し退院後の支援がスムーズに取り組めるよう協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時・定期的に「意向確認書」の提出をお願いしている。御家族・ご親戚を含めて話し合いをする機会になればと考えている。看取り時には改めて話し合いの場を設け、施設で出来得る範囲の説明をし納得を得たうえで主治医・看護師・スタッフでチームケアを実施。	施設で出来る事、出来ない事を充分説明し入居時、入居後も定期的にお願ひする「意向確認書」により、重度化や終末期に於けるご親戚を含めてのお家族の統一した意向を確認した上で、ご利用者への支援を続ける事を基本に、看取りまでの支援に取り組んでいます。職員はマニュアルに沿って支援の内容を共有し実施に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急救命の講習を受けている。定期的に勉強会や防災訓練時にも学んでいる。緊急時の連絡体制は事務所内の見やすい場所に張り出している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を基に防災委員が各災害を想定して毎月、防災訓練を実施。その他に法人としても総合防災訓練や消防署指導訓練・夜間訓練等を実施している。隣接するアネックスとの連携強化の訓練にも力を入れている。	事業所は丘陵地、法人の福祉施設エリア内に所在し隣は特養、諸事業所も点在し、防災に関する訓練は消防署指導のもと、法定訓練のほか、各種災害を想定しての訓練が、計画的に実施され、災害時の備蓄も万全です。法人内各事業所が連携して諸対策が実施されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの人格を尊重し、年長者として尊厳を大切にに対応に心掛けている。施設は「生活の場」居室は「プライベート空間」である事を意識してケアしている。また、入浴や排泄援助時の声掛けや支援に配慮している。	施設は、ご利用者にとっては家庭の延長として「生活の場」であり、人としての尊厳を守り、一人ひとりに寄り添い自立への支援をする場である事を職員全員が共有しています。居室への入退出時の声掛け、入浴時や排泄の支援する際の職員配置まで職員間で話し合われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服・レクの内容や参加の有無・飲み物・食べ物等 日々の生活の中で自ら選択・決定・できる支援の重要性をスタッフに会議や勉強会で伝えていく段階。自己主張できる入居者様の自己決定の尊重は出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースを尊重、入居者様の希望に添いまたその日の気分を重要視し添わないときは中止したりやる気に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、夜はパジャマ更衣し洋服の洗濯する。起床時は洗顔・化粧水をぬる、お化粧をする方もいる。訪問美容室ではパーマやカラー等楽しまれています。外出・行事時はおしゃれ着でいつも以上に華やかになります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせて献立を入居者様と一緒に作るイベントを多く実施しています。毎食後、食器洗いや片づけを一緒にしています。また、可能な限り普通食に近い形で口から食べられることが目標(願い)です。	施設内の良い環境で生活なさっているご利用者は、年々状態が低下していますが、。その中で、ご自分の持ち場を見つけ配膳や食後の片付け、テーブル拭きなどなさり、食事どきも賑やかな笑いが絶えません。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりの状態や日々の食事量・形態をスタッフは把握し、摂取量を確認している。体調等により食事・水分量が少ない時は嗜好品や高カロリー等々の様々な工夫で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをしていただいている。イブニング時・モーニング時はスタッフが付き添い必要に応じて介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて排泄パターンを把握してケアしている。日中は車椅子であっても全員トイレを使用している。夜間は十分睡眠が取れる事を重視して、自ら離床できない場合はベッド上でパット交換する。	各ご利用者の排泄パターンを理解して排泄支援をしてきて居るので、日中は、ターミナルの方を除く全員がトイレを使用しています。夜間は一人ひとりが十分な睡眠を取っていただけるよう各自の自立支援計画に基づく配慮がされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューは野菜を多く取り入れて提供している。食事前の歌や体操・散歩を継続している。便秘が頑固な入居者様は必要に応じて医療と連携して下剤コントロールしている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各居室に専用の風呂があるので気持ちよく入浴して頂ける。入居者様が拒否した時は、無理強いせず時間をずらしたり後日に変更する。また、マンツーマン入浴の実施。	全居室、バスルームが備えられています。週2回の入浴支援が基本ですが、季節やご利用者の状況により回数を増やしたり、シャワー浴に切り替えたり臨機応変に支援して居ます。時には入浴剤を使用したりする事で入浴時の配慮にも怠りません。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は布団干しやシーツ交換等清潔に努めている。室温や音・光・排泄介助方法等の環境を整え安眠できるように支援している。また、昼食後は畳やソファ等それぞれの場所で休息をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬の無いように担当管理のもと、服薬の確認をしている。入居者様の状態にあった服薬が提供できるように状態変化に逸早く気が付き看護師や医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事・個々に添った個人外出等、入居者様の希望に合わせて買い物・外食・外出を担当スタッフは計画し実行している。気分転換を兼ね月一回のお楽しみで行事や計画を立てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・年間行事や外出・ご家族と自由に外出・外泊できる。入居者様の希望外出はご家族の了解を得て個人外出等で叶えられるよう支援している。	散歩などの日常的な外出支援のほか、日頃から一人ひとりに寄り添い支援する過程で語られるご利用者の思いからご家族の了解を得ての墓参りの支援や、今まで住んでいた自宅の畑へ職員と行きスイカを収穫して皆に食していただく事などもあります。ご家族との外出や外泊は自由です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時・買い物時(年2回施設内にヨーカドーがくる)の嗜好品・食べ物・衣類他は入居者様が選択・購入できるよう支援している。事前にご家族へは了解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やお友達との繋がりを重視、いつでも自由にやりとりができるよう支援している。携帯電話・固定電話も可能。年賀状や手紙での交流も継続している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間を通し、毎朝フロア・居室の窓を解放掃除をしている。天井までの吹き抜けのフロアで緑に囲まれ小鳥のさえずりが年間を通し聞こえ四季に応じて花が咲いている環境である。	山荘を連想させるような高い吹き抜けのある天上からの採光は良く、広いフロアは暖かな落ち着いた雰囲気です。ご利用者の生活の場として、その人なりに自立して頂ける様な支援を行っています。また今日は男性職員のギター伴奏でご利用者の青春時代に流行った抒情歌やフォークを楽しく歌っている光景を見る事が出来ました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	60畳のフロアでは、ソファー・テーブル・畳コーナーがあり思い思いの場所で入居者様は過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室内は、災害時に考慮しながらも入居者様の馴染みの品を持ち込んでいただき居心地の良い部屋になっている。	ご利用者一人ひとりが馴染みの品々を持ち込んで居心地よく過ごされるよう工夫しておられます。お孫さんが高校野球部での地区大会に優勝し、殊勲選手として新聞記事で紹介された写真付き記事を沢山、壁に飾られている居室も有ります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援・残存機能の活用を大切に、お一人おひとりの身体状況に合わせて入居者様の出来るお手伝いをさせていただいている。役割がある「できる」事が増えるという実感が沸いてくるように支援している。		